

白無垢

SHIROMUKU

和装は「織」「染」「縫」からなる日本文化と芸術の象徴であり、
技の継承による最高の格式を持つ衣裳です。

昔は武士の婚礼に用いられたという「白無垢」は
穢れなき純粋を表すものとして結婚式の儀式衣裳となりました。







お背中に大きく鳳凰が描かれている白無垢は、糸を一つひとつ玉結びにしている相良刺繍という技術がつかわれており、お写真でも柄がはっきりと分かります。



縁起良い霊鳥鳳凰の祝舞を、匠の技で一針一針丹精込めて創作した逸品です。白を基調としながらも金糸を巧みに使い、躍動感を出して仕上げています。

色打掛

I R O U C H I K A K E

お色直しの意義

結婚式の後、両家が花嫁を家族として愛おしく受け入れる証として
白から色物に全員が着替えた名残です。

三日三晩祝宴をもたらしたと文献にも記されています。





吉祥尽くしとは、四季折々の草花、宝尽くし、四君子など、花嫁様を称える風雅と賛美、そして至福を祈念した逸品です。黒地緞子地の輝きと総相良刺繍の繊細さは、何より豪華絢爛です。



人間国宝山口安次郎翁の琳派扇面図
です。能装束の唐織手織の第一人者
として有名ですが、打掛は特に珍しい
作品です。西陣織の技術の粋を感じる
日本婚礼の儀に最も相応しい衣裳です。



黒地は一見地味な印象を受けますが、格調高い打掛で赤の掛下やが、総絞りの掛下を組み合わせると、より一層華やかさを増します。菊の柄は至福と長寿を祈願し、施された金駒刺繍の匠の技が圧巻です。



民俗博物館所蔵の江戸前期の古典柄を現代に復元した、雅で煌びやかな打掛です。波頭の斬新な流れの意匠は、古代史を物語る圧倒的な存在感と優美さを演出します。



20世紀初期のヨーロッパのドレスをモチーフに、ベルベット地にユリやバラの花を刺繍で散りばめた、高貴で豪華、そしてアンティークなイメージを演出した逸品です。



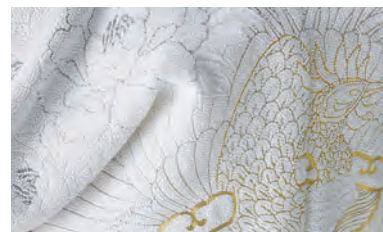
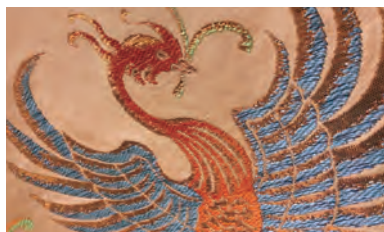
元禄時代に東南アジアから伝来した鮮やかな「うこん草」の黄色の打掛。花丸紋様の華やかさは、喜びの佳き日にふさわしい打掛としてハレすること間違いなしです。



古くから花嫁様衣裳として親しまれて
いる本振袖。昔ながらの黒引きから、
あざやかな色味のある振袖までご準備
しております。数多くある帯やお小物
で花嫁様らしいコーディネートに。

京都をはじめとする日本の伝統的な技術を駆使した、美しい本物だけを。

MADE IN KYOTO



織 ori

唐織

唐から伝わった技術。重厚感のある豪華な織物で能衣裳として知られています。

緞子織

品格ある光沢の重厚さは打掛に最適で、刺繍等が良く合う織物です。

染 som e

友禅染

宮崎友禅齋が完成させたとされる「京友禅」。華やかで柔らかな着心地が特長です。

絞染

一粒を糸で何度も巻き、染めることで引田絞として完成する優美な染めの技法です。

刺繍 shishu

日本刺繍

友禅染着物などの部分に施す刺繍。非常に繊細で高貴な技法として知られています。

相良刺繍

一針ずつ糸を玉結びにして点刺する技法で、縁を結ぶとして珍重される高級刺繍。